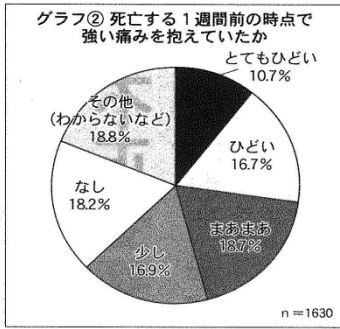
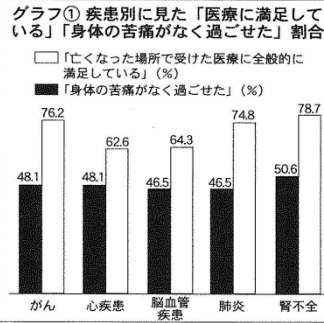


# 患者3割「苦痛あり」

## がん研 遺族にアンケート

国立研究開発法人国立がん研究センター(東京都中央区)は昨年12月26日、全国のがん患者の遺族などを対象に実施した、医療や療養生活に関する調査の結果を発表した。それによると、患者の約3割が、死亡する1週間前の時点で強い痛みを感じていることが分かった。



医療に関する満足度は高い。この調査は、「がん」「心疾患」「脳血管疾患」「肺炎」「腎不全」で死亡した患者の遺族4812人を対象に昨年2月から3月にかけて実施したもの。有効回答数は2295。こうした調査は国内では初となる。

まず「医療者は患者の苦痛症状に速やかに対応していた」と回答したがん患者遺族(以下・遺族)は83・7%で、5疾患中で最も高くなっている。また、「亡くなった場所で受けた医療に全般的に満足している」と回答した遺族は76・2%で、疾患別に見た場合、腎不全の78・7%について高い数値となっている。

しかし、「身体の苦痛がなくなつて」との回答は48・1%となっており、5疾患中2

ほかの疾患との差はそれほど大きくない(グラフ②)。これについてセンターでは「医療に対する満足度は高い一方で、必ずしも全ての人の苦痛が十分に取除かれ

### 「緩和ケア等の対策必要」

ひどい痛みを抱えている現状がある。「死別後に抑うつ症状を有する」と回答した遺族は16・6%で5疾患中2番目に多かった。

介護の負担感4割が「大きい」

また、「介護による負担感が大きかった」と回答した遺族は42・1%で5疾患中最少だった。

後の家族が抑うつ症状を有する割合は一般人と比べても高い。家族へのケアについても対策を検討する必要があることが示唆された。今回の調査は予備調査として実施したもので、センターでは今年中に約5万人を対象にした本格調査を行う。この調査では、疾患別の死亡場所や都道府県別の集計も行う予定。

老人ホームのブランドを「フレザンメン」「フレザンケラン」に変更した。なお旧ブランドの「たのしい家」はグループホーム及び小規模多機能で引き続き使用している。

現在、同社は「メゾン」を32棟、「ケラン」を4棟運営している。2019年度には、「メゾン」を関西で2棟、「ケラン」を東京で2棟新規開設する計画。